

♪♪♪宗次ホールおすすめ公演情報 2016年8・9月♪♪♪

チケットのご予約は 宗次ホール チケットセンターへ 052-265-1718(営業時間10:00-18:00)

夏まつ盛り！ 8月はなんと37公演！ ギター・フェスティバルや音楽講座など、夏休みならではの特別企画に加え、6月にモントリオール国際音楽コンクールで第1位を受賞された辻彩奈さんのリサイタルが急遽8月13日に決まったりと、(別途読み物がございますのでお楽しみください♪)盛りだくさんです。皆様のご来場をお待ちしております！◎

(文責:宗次ホール企画担当 廣田 政子)

今年の夏も帰ってきた！ 響炎する4本のチェロ！
クアルテット・エクスプローチェ
8月5日(金)18:45開演 3,500円(学生2,100円) [自由]



2013年末、大学時代から気心の知れた4人で結成されたチェロアンサンブル、エクスプローチェ。今年7月には待望のCDをキングレコードからリリースしたばかりです！ グループ名の由来は、枠に収まらない爆発的なアンサンブルを目指すという意味のExplode(爆発)そして積極的に様々なジャンルのプログラムを取り入れるという意味でExplore(探検)、それにチェロをもじった業界用語“ローチェ”を組み合わせ命名されたもの。“爆発”の名の通り、N響・読響・東響・日フィルに所属する実力派若手4人がアツい演奏を披露します！ 定番曲であるバッハ“シャコンヌ”では更なる進化を続ける4人の音色を。そして“様々なジャンルのプログラムを”という目標通り、今年はベートーヴェンのピアノソナタ「月光」や「ウェストサイド物語」のメドレーもプログラムに！ チェロ4本にアレンジされた、名曲の新しい魅力が発見できそうです。

メンバーの中でも抜群の存在感とおとぼけトークでいつも笑いを掴む辻本玲さんは、当館のオーナー、宗次徳二が代表を務めるNPO法人イエロー・エンジェルより1724年製作のアントニオ・ストラディヴァリウスを貸与されているチェリストで、10月12日には永野光太郎さん(ピアノ)と共にスイーツタイムコンサートにご出演されますので、そちらもどうぞ、お楽しみに！

メンバーの中でも抜群の存在感とおとぼけトークでいつも笑いを掴む辻本玲さんは、当館のオーナー、宗次徳二が代表を務めるNPO法人イエロー・エンジェルより1724年製作のアントニオ・ストラディヴァリウスを貸与されているチェリストで、10月12日には永野光太郎さん(ピアノ)と共にスイーツタイムコンサートにご出演されますので、そちらもどうぞ、お楽しみに！

世界各地の个性的名手たちによる迫力のプラス！
ジ・アジア・コネクションB.Q.
8月8日(月)18:45開演 3,500円(学生2,100円) [自由]



世界的トランペッター、ヒロノグチさん率いるジ・アジア・コネクションB.Q.は今年めでたく新結成！ この超個性派ミュージシャンたちの結成記念

公演が開催されます！ 米ワシントン・ポスト紙にもその演奏が「スムーズで官能的！」と評されるヒロさんは、長きにわたりNYカーネギー・ホールやリンカーン・センターを拠点に演奏活動を行ってきた国際派。またジュリアード音楽院をはじめ、ハーバード大学などにも招聘され、マスタークラスを行う教育者でもいらっや

います。それぞれの演奏、音楽を知り、そこに自らの音楽を各自ぶつけていくと化学反応がおき、音楽に生命が吹き込まれる。“こういふときにごそ室内楽をやっている！”と実感が湧くそう。

イタリア、アメリカ、日本、と生まれもバックグラウンドも様々な名手5名ですが、今は日フィル、神奈川フィルや仙台フィル、大阪フィルなど、日本国内のオーケストラで活躍中、そのアジアでの繋がりはアジア・コネクションということで発足したこの新アンサンブル。ちなみにB.Q.はプラス・クインテットではなく、あくまでも“ビーキュー”という読み方だそうです。

日本をベースに活動するトップメンバーによる迫力の金管五重奏の世界をどうぞ、お楽しみください！

お得なスイーツタイムコンサート！

(料金・時間は一律です)

13:30開演 2,000円 自由席 ※終演15:00予定

プレゼントチケット(ギフト券セット購入のおまけ等)2枚で入場可能

★チャリティーシート(指定席)AB列中央付近23席限定

スイーツタイムコンサートは、これからクラシック音楽をじっくり聴いてみたいなあという方、夜は出かけづらいので昼間に本格的な演奏を楽しみたいなあという方にぴったり。国際的にも活躍するベテラン演奏家から気鋭の若手までが登場。みな2,000円ではお得すぎるほどの素晴らしい演奏家たちです。ご期待下さい！

浜松国際ピアノコンクールで日本人歴代最高位2位 8月9日(火)中桐 望 ピアノ



2012年、第8回浜松国際ピアノコンクールで日本人最高位の第2位を受賞された中桐さん。この時、第1位と聴衆賞を受賞されたイリヤ・ラシュコフスキーさん(ロシア)も10月26日にサクスの住谷美帆さんと宗次ホールで来演予定、そして第3位と室内楽賞を受賞された佐藤卓史さんも当館ではお馴染みのピアニスト。そんな、今をときめく若手演奏家

たちを代表する一人である中桐さん。昨年は「日本ショパン協会賞」を受賞されました。この賞、これまでに海老彰子さん、清水和音さん、小山実稚恵さん、横山幸雄さん、伊藤恵さんという今の日本を代表するピアニスト達が受賞してきた、大変名誉ある賞です。中桐さんの華々しい受賞歴からは想像できませんが、実は中学生のときにピアノから離れた時期があるそう。勉強や吹奏楽(3年間、パーカッションを担当されていたとのこと!)など他にもやりたいことがたくさんあったからだそうです。そんな中桐さんを、“音楽は楽しむものだから”と温かく見守ってくれた当時の先生や周りの理解があり、自由に音楽に触れることができたそうです。ピアノをひとりで弾いているだけでは味わえなかった色々な経験がその豊かな音楽性にも大きな影響を与えているようで、今でも即興的にアレンジをしたり、伴奏したりというのは得意だとお話されます。試験やコンクールという実力者が揃う場、自分の力を出し切って成果を出すのは容易なことではありません。そんな中でもそういう視点で音楽をするのではなく、純粹に「いい音楽」

を求める姿勢を心がけてきたという彼女。プレッシャーや周りに流されず、「いろんなことを体験することがすごく大事。弾きたくないときは弾かなくてもいい。みなさんそれぞれが、音楽と接する一番幸せな形を見つけて楽しんでくださるといいな」と仰います。いつも自然体で音楽に向き合い、コンクールや試験はあくまでもひとつの通過点として考えておられる、おおらかさと広い視野をもった音楽家であることがうかがわれます。

今回の公演は「ファンタジー」をテーマにしたプログラミング。「ファンタジー」は幻想曲と訳されますが、空想、幻想、白昼夢などという意味があります。しかし今回演奏されるモーツァルト、ショパン、シューマンいずれの「幻想曲」も幸せな夢想とは異なり、まるで作曲家の最も暗い部分を覗き込んでいるかのような影のある美しい作品。2014年よりポーランドで研鑽を積んでいる中桐さんですが、特にショパンが大好きであり、好きだからこそ近づこうとすればする程自分の想いが強くなり過ぎて、かえって遠くになってしまうような気持ちを抱いているそう。今はポーランドに住んでいるからこそ、この国が背負ってきた歴史に加えて言葉や踊りといった民族的な要素、そして極めて難しいといわれるその原語の中でショパンの音楽を深く修得されています。

着々とキャリアを築きながらも、いつでも自分の演奏に対して厳しい姿勢と謙虚さを忘れない中桐さん。その豊かな音楽性が奏でる幻想の世界をお楽しみください。

**フィレンツェに20年間在住した本格派ソプラノ歌手
8月20日(土) 野原 広子 ソプラノ**



福井県美浜町生まれの野原さんは1989年より20年もの間、欧州で活躍されていた本格派ソプラノ歌手。最初はウィーンに渡ってドイツリートを学ばれた後、イタリア・フィレンツェに移ったそう。野原さんがフィレンツェで修得された「ベルカント唱法」ですが、この「ベルカント」という言葉はイタリア語で美しい歌、という意味で、喉に負担をかけることなく、低音から高音まで気持ちよくなるびやかに歌う唱法のことを指します。ドイツものの作品を歌う際のドイツ唱法と、このイタリアのベルカント唱法は横隔膜の使い方が全く異なるそうですが、どちらもマイクを使わず大きなホールでも隅々まで声を響かせるための技術です。子音が母音と同じ位大切なドイツ語に対して、イタリア語の子音は軽くすばやい発音なので、その発音の違いも発声に大きな影響を与えているそう。長い間イタリアに住み、その原語の中で生活をされてきた野原さんにとって、その言葉で歌うイタリアの名歌たちはまさに「自分自身の言葉」で歌っている、といえるものでしょう。

この日のゲストであるテノール歌手中山亮一さんもNPO法人イエロー・エンジェルより奨学金の給付を受けてイタリアに留学、帰国後藤原歌劇団に入団し、野原さんとは毎年共演を重ねている注目の歌手。どうぞお楽しみに！

**ロシアのピアノリズム、鮮烈な競演！
8月28日(日) 破壊と新生 ピアノソロ&デュオ
黒岩 悠・吉永 哲道 ピアノ**

前回の浜松国際音楽コンクールで審査員を務めたセルゲイ・ババヤンや個性派・スカンダル王のイーヴォ・ポゴレリッチに師事し、ロシアのピアノリズムを受け継ぎ、今年も日本国内に留まらずドイツやイタリア、スイスなど欧米各国でも演奏家・指導者として活躍する黒岩さん。ドイツ国内紙上でも「驚嘆すべき完全さ」と高く評価されるピアニストです。黒岩さんのブログやツイッターでは演奏旅行で訪れる欧米の国々の建築や風景、何気ない裏道や美しく盛られた料理の写



真まで、全てが素敵！吉永さんとは昨年も銀座ヤマハホールでデュオの演奏会をされており、その時もほぼ満員御礼だったそう！名古屋ゆかりのピアニスト、吉永さんもモスクワ国立音楽院へ留学され、ロシア国内でも活発に演奏活動を行っていた方。実は前回のコンサートで、全ての音が完璧にコントロールされた吉永さんの素晴らしい演奏に、多くのお客様から絶賛の声を多く頂きました。ロシアピアノリズムを継承する二人によるピアノ・デュオではオーケストラのような重厚な演奏を聴かせてくれます！

乞うご期待！

**浜松国際ファイナリスト、注目のロシア人ピアニスト
9月5日(月) ニコライ・サラトフスキー ピアノ**



2006年の浜松国際ピアノコンクールで接戦の中ファイナリストとなったサラトフスキーさん。ちなみにこの時の第3位は当館でもお馴染みの北村朋幹さん。サラトフスキーさんのその恵まれた体格と大きな手から生み出される堂々たる音に魅力された方も多かったそう。今回のコンサートもロシアの伝統的ピアノリズムを継承している彼の演奏だからこそ聴きたい、ラフマニノフの前奏曲やプロコフィエフ「ロメオとジュリエット」、そして7月には11年ぶりに豊田市コンサートホールでも来演した巨匠、プレトニョフ編曲によるチャイコフスキーのバレエ音楽「くるみ割り人形」。ピアノもオーケストラも知り尽くした巨匠によって、有名な可愛らしい作品達が超絶技巧作品へとアレンジされています。9月のゆめたろうプラザ(武豊町民会館)でのサラトフスキーさん公演は既に完売！

どうぞ、お急ぎください！

**2年前の宗次ホール公演で大好評につき再来演のギタリスト
9月7日(水) ヨゼフ・マザン ギター**



2014年2月の来演時に、スタッフの集客に対する心配をよそに、多くのお客様にご来場・大好評を頂いたマザンさん。「聴衆の皆様が心から楽しんでくれる作品を演奏したい。そして、私の音楽へ対する愛情を伝えたい」と熱く語ります。彼にとってギターは柔らかく軽く、そしてロマンチックで抒情的な、自分の内面を伝えてくれる楽器だそう。そういった点をギターへの好きな理由と挙げつつ、聴衆の心を掴むには、感情を余すところなく伝えきることが重要、と仰います。その為には様々なテクニックや音域にバラエティを持たせることが重要であり、マザンさんは暗く深い音色の、古いロマンチックな作品にぴったりのギターと、バロック作品にぴったりの50年もののギターなどを弾き分けているそう。

毎日6時間以上は必ず練習されるというマザンさん。1日たりともギターに触らない日はなく、作品の技術を習得した後もそのスタイルを追究したり、全て完璧に暗譜を行うため、膨大な時間を要すること。一人でギターに向き合う時間が長いため、「他の多くのことを犠牲にしている」と。音楽に真摯に向き合うギタリストの再演が待ち遠しいですね！

**チケットのご予約・お問い合わせは
宗次ホールチケットセンターへ
☎ 052-265-1718**